

# 国際交流基金助成事業報告書

薬学部 6年次生 芳田 雅

## 1. はじめに

この度、本学の国際交流基金の助成を受け、2017年7月30日から8月3日の5日間、台湾桃園市の Chang Gung University Campus で開催された The 7<sup>th</sup> Asian Particle Technology Symposium に参加し、自身の研究成果についてポスター発表したため、報告致します。



写真 1. 会場前 (上)、宿泊した施設 (下)

## 2. 粉体工学会について

粉体工学とは“粉”に関する研究や技術の開発を行う学問分野であります。粉体の物理的、化学的基礎特性の研究と、粉体に関する工学的試験・計測、それを基礎とした粉体の製造、処理操作と装置等を対象としています。粉体工学会は、粉体に関わりを持つ科学者、技術者の討論と研鑽の場であり、昭和 31 年に発足した中部粉体工学研究会が昭和 32 年に粉体工学研究会に改称し、さらにその内容の充実にともなって昭和 53 年に学会に改称されました。毎年春秋の研究発表会や夏期シンポジウムなどの各種行事が行われています。

## 3. Asian Particle Technology (APT) Symposium について

最初の APT は 2000 年にバンコクで開催され、今回で 7 回目の開催となります。今年は 2017 年 7 月 30 日から 8 月 3 日までの 5 日間、台湾の桃園市で開催されました。シンポジウムのテーマは「Advanced Particle Technologies for Traditional and Emerging Industries.」であり、アジア太平洋諸国および世界各地の学術、工学学会に粒子技術に関する専門知識を学び共有することが目的とされています。

## 4. 学会の様子

本学会は Chang Gung University Campus にて開催されました。私のポスター発表は 3 日目であったため、その他の日は口頭発表、keynote やポスター発表を拝聴しました。多くの発表ではジェスチャーを交えたり言葉に抑揚を加えたりしながら行われており、大切なポイントや言葉が大変わかりやすく演説に引き込まれました。このようなジェスチャーや抑揚の変化を交えた発表は、以前に国内の学会に参加した際にはあまりみられず、今回のような海外の学会での発表風景に非常に驚くとともに感動しました。一方で、英語での専門用語が飛び交う演説はやはり難しく、途中でわからなくなることが多々有り、自分の英語力そして知識不足を感じました。



写真 2. 会場内

## 5. ポスター発表

ポスター発表は、8月1日の10時15分から11時15分までの75分間、3つの部屋に分かれて行われました。各会場は想像よりも小さく発表者も少ないことに加え、上記の時間帯はポスター発表のみが行われていました。そのため、多くの方が見に来られると感じ、緊張が増しました。英語での発表に備え、日本で練習を何度も行い、想定される質問も用意して発表に挑みましたが、やはり最初は緊張し自ら積極的に発表を行うことができませんでした。しかし、前日に会話した方や日本の方が発表を見に来てくださったことで徐々に緊張がほぐれていき、最後には多くの方に向けて発表することができました。本学会では薬学出身の方が少なかったため、使用した薬に関する質問を多くいただきましたが、簡単にしか答えることができず、もう少し準備をしていくべきであったと反省しました。インド出身の方が発表を聞きに来られた際に英語がうまく聞き取れず、何度も聞き返してしまいましたが、言い方を変えてゆっくり話して下さったため、最後は自分の考えを伝えることができました。拙い英語であっても相手に伝えようとする姿勢を見せることが大切であることを身をもって感じました。



写真3. 発表風景

## 6. おわりに

今回、国際交流基金の助成により、The 7<sup>th</sup> Asian Particle Technology Symposium に参加させていただいたことは、非常に貴重な経験となりました。英語での発表は想像以上に難しく、相手の質問を聞き取り簡単な英語やジェスチャーで答えることが精一杯で、思うようにディスカッションができませんでした。しかし、多くの海外の方や日本の学生と交流することはとても刺激的であり、また、本学会に参加するにあたって発表練習や準備を行い努力したことは、今後の糧になると思います。また、このような貴重な経験を将来に活かしていきたいと思います。最後に、このような機会を設けて頂き感謝申し上げます。



写真4. 中正記念堂